

協会及び県内6総合病院に委託して検診を行った。

検診項目は、一次検診として問診・視診・触診、医師の判断により二次検診として乳房X線撮影診である。

該当者数 (A)	申込者数 (B)	受診者数 (C)	受診率		異常なし	要精検	要経過観察
			C/A	C/B			
			%	%			
人 4,690	人 1,388	人 1,281	% 27.3	% 92.3	人 1,238	人 4	人 39

### (3) 教職員レクリエーション事業（12年目）

教職員の元気回復として多数が参加して楽しめるレクリエーションを実施し、相互親睦と福祉の増進を図るため、県内各地区において教職員レクリエーションを実施した。  
実施状況 96地区 203会場 参加人員 18,090人

## 2 県、共済組合及び互助会の共催事業

### (1) 人間ドック

昭和59年4月1日現在で40歳、45歳、50歳、55歳、57歳、59歳に該当する教職員については、県、共済組合及び互助会の共同事業として実施し、日帰りドックは、35歳の教職員を対象に共済単独事業として実施した。

ア 人間ドック病院別実施数（短期ドック）

委託病院	当初予定人員	実人員	検費支出額	共済支出額	互助会支出額
東北中央病院	人 100	人 98	円 —	円 4,237,044	円 —
県保健衛生協会	211	183	13,727,000	6,486,900	—
保原中央病院	80	79	—	2,646,500	—
太田総合病院(熱海)	324	328	—	15,390,000	6,650,000
公立岩瀬病院	80	79	—	3,436,500	1,740,000
公立小野町総合病院	40	39	—	1,774,500	1,592,500
塙厚生病院	40	37	—	1,683,500	1,592,500
会津総合病院	180	183	—	8,531,460	—
磐城共立病院	150	149	—	6,779,500	4,095,000
松村総合病院	180	180	—	8,550,000	3,800,000
竹田総合病院	110	106	—	5,035,000	2,850,000
福島労災病院	40	38	—	1,653,000	—
計	1,535	1,499	13,727,000	66,203,904	22,320,000

### イ 人間ドック病院別実施数（日帰りドック）

委託病院	当初予定人員	実施人員	共済支出額
県保健衛生協会	人 178	人 175	円 4,112,500
太田総合病院(熱海)	135	126	3,339,000
会津総合病院	72	68	1,769,360
松村総合病院	100	95	2,707,500
小計	485	464	11,928,360

## ウ 実施結果

項目	検診項目別指導基準				受診者 (e)	指導基準別比率			
	A (a)	B (b)	C (c)	D (d)		a/e	b/e	c/e	d/e
一般理学	人 1,454	人 255	人 327	人 41	人 2,077	% 70.0	% 12.3	% 15.7	% 2.0
呼吸器	1,623	313	109	32	2,077	78.7	15.1	5.2	1.5
循環器	870	454	539	214	2,077	41.9	21.9	25.9	10.3
消化器系	957	469	517	131	2,074	46.2	22.6	24.9	6.3
腎機能	1,627	281	97	72	2,077	78.3	13.5	4.7	3.5
胆のう	1,866	92	77	26	2,061	90.5	4.5	3.7	1.3
肝機能	1,664	187	172	54	2,077	80.1	9.0	8.3	2.6
糖尿病	1,223	403	329	119	2,074	59.0	19.4	15.9	5.7
血液系	1,727	232	73	45	2,077	83.1	11.2	3.5	2.2
血清	2,050	13	10	4	2,077	98.7	0.6	0.5	0.2
眼科	1,571	367	85	54	2,077	75.6	17.7	4.1	2.6
婦人科	400	108	20	8	536	74.6	20.2	3.7	1.5
計	17,032	3,174	2,355	800	23,361	72.9	13.6	10.1	3.4

(注) 指導基準の区分

A……異常なし

B……わずかに異常を認めるが、日常生活支障なし

C……日常生活上注意を要する。改めて精密検査を要する

D……治療を要する

## 3 共済組合単独事業

### (1) 女子組員保育補助（19年目）

昭和59年度内に出産又は出産が予定される女子組員に対し、母体保護及び保育に要する経費負担の軽減を図るため、保育用品を交付した。

区分	内容	交付数
Aセット	パジャマ、肌着(上・下)、エプロン、タイツ、ストレッチカバーオール	152
Bセット	マザースバック、オムツカバー(2枚)	89
Cセット	ベビー毛布(カバー付)、ベビーバスタオル	151
Dセット	国民医学大事典赤ちゃん百科	138
計		530

### (2) 銀婚祝賀（22年目）

昭和59年度内に銀婚を迎えた組員に記念品を贈呈して祝福した。贈呈品は「有田焼桜花紋睦揃夫婦茶碗」(配偶者も組員の場合は、妻である組員に別に「会津木製漆器宝石箱」)である。632人

### (3) 親子招待（17年目）

母子家庭及び父子家庭の生活の主体者である組員の日ごろの労をねぎらうため、親子ともども指定する旅館に招待し宿泊費の助成を行った。

親子招待数 176組  
助成額 組員及び中学生以上の被扶養者 10,000円